J'espère
一般社団法人ジェスペール

～被災地のママと赤ちゃんに笑顔を～

被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ

東北こそだてレター（被災地の今・・・）

2013/7/18 配信 vol.11

～なかの育フェスと NPO 法人こそだてシップの活動から考える、行政支援に先行しての子育て支援～

◆ 支援実績（2013/6/30 現在）

＜支援母子数＞
6 月：　480 組　　【計 5,296 組】

＜活動場所＞
岩手（大船渡・陸前高田・釜石・大槌・遠野・宮古）
宮城（石巻、気仙沼、亘理、名取）
福島（いわき、相馬、南相馬）

＜活動内容＞
育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操/
ママのリフレッシュ体操／親子ビクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。
一般社団法人ジェスペールです。

さて、"東北こそだてプロジェクト"は、この 7 月 1 日をもって、無事に 1 年目を終了いたしました！平成 24 年 7 月～平成 25 年 6 月までの 1 年目で何と 5,296 組の母子のサポートをさせていただくことができました。

この数字は、サロン・巡回支援実績です。もっと厳密にカウントしようとすれば、こまむどぉる等の配布も含めるべきなのですが、さすがにそれは難しかったので・・・。

ジェスペールのこの 1 年の広範囲で数多くの母子のサポートを行う事ができたのは、西友／ウォルマートジャパン様の助成金によるもの、及び皆さまのサポートによるものです。
西友様と皆様に心よりの感謝いたしますとともに、今後とも母子支援活動への引き続きのご支援をお願い申しあげます。

さて、今月は「被災地から」と「子育て玉手箱」はお休みさせていただき、ジェスペールが子育て支援イベントに参加したご報告と、そのイベントの中で NPO 法人こそだてシップ代表の伊藤怜子助産師が講演した内容をご紹介します。

どちらも行政の支援が手薄な地域で先行して子育て支援に取り組んでいます。
東京での子育て支援の状況と、被災地での母子支援の状況をどうぞご覧ください。

◆ ジェスペール《なかの育フェス》に参加　6 月 22 日・23 日なかの ZERO ホール

《なかの育フェス》は 6 月 22 日・23 日に東京都中野区にある、なかの ZERO ホールで開催されました。
ジェスペールがなぜ《なかの育フェス》に参加したかといいますと・・・。

ジェスペールの前身はご存知の方も多いと思いますが、《東京里帰りプロジェクト》です。
2011 年 3 月 11 日の震災の後、代表宗が「津波で冷えている妊産婦さんを何とか支援したい」という気持ちから《東京里帰りプロジェクト》を立ち上げました。

代表の宗の本業は助産師であり、松が丘助産院を開業して、日々お産を取り扱っています。
この松が丘助産院が東京都中野区松が丘にあります。
そのためジェスペールの本拠地は松が丘助産院と同住所になっており、今回参加の運びになりました。

Copyright (c) 2012-2013 Jespere, All rights reserved

◇◆中野区の子育て支援状況

中野区には様々な子育て支援団体があります。東京の 23 区は区によっても様々な違いがありますが、行政が子育て支援に力を入れているところや、行政はあまり力を貸してくれないけれども、お母さんたちのグループが活発に活動しているところもあります。

中野区は後者になります。このフェスティバルは、行政は全く関与しておらず、中野区にある多くの子育て支援団体の方々が自主的に開催しました。
参加団体は 30 以上にのぼり、日頃なかなか顔を合わすことが出来ない方々とも情報交換や交流を深めることが出来ました。

参加団体の催しはダンスあり、音楽あり、手作りおもちゃあり、お話し会あり・・・。
どの団体も子育てを見守り、また子育ての大変さや、楽しさを共有していこうというグループや団体です。参加者は２日間で１０００人を超え、中野区では初めての試みであったにもかかわらず大きな盛り上がりをみせました。

以上のような経緯で松が丘助産院、ジェスペールが同じブースで参加いたしました。

◇◆イベント当日のジェスペールと助産師たち

ジェスペールは被災地の今を写真で紹介し、パネルの前に立ち止まってくださった方々に実際の活動を説明いたしました。この活動に対する賛同をもとめ、寄付もお願いいたしました。
２日間で約 15,000 円の寄付を集めることができました。

また、中野区で活躍する助産師たちの会「子育ち応援隊」のメンバーとともに、ハンドマッサージをしながら助産師による無料相談、を行いました。

開催 2 日目の 23 日は大船渡市から NPO こそだてシップ代表の伊藤怜子助産師が、被災地での子育て支援の「今」と題して震災当時から今に至るまでの貴重な体験を講演してくださいました。

以下、伊藤怜子助産師による講演の概要をご紹介いたします。

◇◆支援が行き届かない状況の中での孤軍奮闘

震災直後に避難所を訪れた伊藤怜子助産師は、避難所の中に 4 組の赤ちゃん連れのお母さんを見つけました。その中の 1 人は母乳がでず、ミルクで育てていたのですが、ミルクがなかなか手に入らず、困っていました。それを聞いて、被災した家からなんとかミルクを探し出し、そのミルクで赤ちゃんは生き延びました。

医療支援が来るまでの 5 日間、まったく孤立した中で、伊藤助産師は避難所の母子を支え続けていました。

東北沿岸部の病院のほとんどは被災したため、被災を免れた大船渡病院しかお産を受け入れるところはありませんでした。しかも無事にお産をしても、戻る家がありません。
そのような出産直後のお母さんと赤ちゃんのために、仮設の母子受け入れ施設ができました。震災後 4 日目のことです。

その施設にも来てほしい、と大船渡市から依頼がありました。ここでも伊藤助産師が必要とされたのです。医療者は伊藤さんだけ。6 組の母子のお世話をしなければなりませんでした。おっぱいが出なかったらどうしようと心配していましたが、幸い 6 人とも母乳だけで赤ちゃんを育てることができたそうです。

◇◆周囲の誰かが亡くなる地域

陸前高田市は街そのものがすべて流された、といった状態でした。現在も変わっていません。5 階建ての建物の 4 階まで津波が来て、逃げる時間は十分にあったにもかかわらず、だれもそんなところまで津波が来るとは思いませんでした。そのため多くの犠牲者が出たのです。特に陸前高田市役所では、多くの職員が犠牲になり、保健師に至っては 9 人中 6 人が亡くなりました。

陸前高田市と大船渡市で亡くなった方は合計 1,869 人。そのうち未だに 297 名の人が見つかっていません。

Copyright (c) 2012-2013 Jespere, All rights reserved

その中には伊藤助産師の親しい友人や、つながりのあったドクターなどももちろん含まれています。この地域でどなたに会って話しても、近い親族の誰か、また親しい友人の誰かが亡くなっています。

◇◆ママサロンの開催

ママサロンは 2011 年 10 月、ジェスペールの前身である《東京里帰りプロジェクト》
の支援で第 1 回目を開催しました。
開催当時、被災地には小さな赤ちゃんをつれた親子を見かけることが殆どありませんでした。サロンを開催してもいったい人が来るのだろうかと不安に思いました。
しかしその予想を覆し、第 1 回のサロンには３０組を超える母子が次から次に参加してくました。
その場所は互いの無事を喜び、友人の死を確認するそんな場所になったのです。

サロンは現在も大船渡市で月 1 回、陸前高田市で月 1 回開催し、震災から 3 年目を迎えた今、当時生まれた赤ちゃんも 2 歳を超えるようになり、サロンをベビーとキッズに分けて開催しています。
また、仮設住宅だとなかなかこの会に参加できない方々のために、助産師たちが赤ちゃん訪問と称して巡回訪問を行っています。

開催当時、お母さんから辛かった話はなかなか出ませんでした。何度かサロンを開催する中で、助産師がハンドマッサージをしてお母さん達と触れ合う、そんな中でやっとお母さんたちが口を開くようになりました。そして助産師はひたすら聞くだけです。
自分の親が亡くなった、家が流された、職を失った、夫が荒れて家の中ではなかなか仲良くすることができない、仮設住宅は隣と壁一枚なので子どもがうるさいと苦情を言われる。そんなお母さんたちの辛い思いが、やっと口から出るようになりました。

◇◆変わりつつある子育て支援への意識

岩手県の県南の沿岸部を気仙地方といいますが、陸前高田市、大船渡市の両地方は子育て支援に関する活動が今までほとんどありませんでした。
また行政にも子育て支援に対しての理解はほとんどありませんでした。
行政の支援対象はほとんどお年寄りだけという現状でした。しかしこそだてシップの実績の大きさと、そして NPO 法人として立ち上がった状況がある中で、行政も子育て支援の必要性を感じて来ています。これから、子育てをしていく世代を支援し、元気に子どもが育っていく、そんな地域にしなければ本当の復興はないと、市長自らこの(NPO こそだてシップ)に援助を求めています。

大船渡市長から、これまで任意団体として活動してきたものが、NPO 法人こそだてシップとして認証を受けている様子を写した写真が、ジェスペールのホームページにあります。
下記ページでご紹介しています。ぜひご覧ください。
http://tohokumama.org/activity_report/kosodateship/

なかの育フェスに NPO こそだてシップの代表 伊藤怜子助産師が参加し、中野に住んでいるお母さんやお父さんたちにこのような現状を生の声で伝えてくださいました。

Copyright (c) 2012-2013 Jespere, All rights reserved

◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。
http://tohokumama.org/donation/

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。
ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。

発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：http://tohokumama.org/　**お問い合わせ先：**info@tohokumama.org
Twitter: https://twitter.com/tohokumama　**Facebook:** http://www.facebook.com/tohokumama

Copyright (c) 2012-2013 Jespere, All rights reserved